

## 2020年11月 定例観察会 報告書

世話人代表 山本正秋

<b>日 時</b>	2020年11月28日 (土) 9:30~12:00			報告者：豊嶋 和男
<b>探鳥地</b>	神戸市立森林植物園			天候：曇り時々晴れ
<b>参加人数</b>	25期生 4名 26期生 10名 27期生 5名	顧問 3名	総計22名	
<b>観察コース</b>	萩の小道～薬樹園～メタセコイア並木～あじさい坂～シラカバ林～カラマツ林～長谷池			
<b>観察概要</b>	<p>北鈴蘭台から植物園までのシャトルバスの車上、コロナ禍の折り運転手より会話はしないように注意有り。堀池顧問からも今日は人通りの少ない所を中心に散策する旨説明あり。まず、駐車場を横切り、萩の小径に向かう途中ハクセキレイ数羽が路上で見られた。セグロセキレイとの見分けは頬の色とのこと。ハクセキレイは白、セグロセキレイは黒。キセキレイも飛んでいたようである。ハクセキレイは平地でも多くみられるが、キセキレイは主に山地で見られるとのこと。萩の小径ではベニマシコが数羽萩の実を食べていた。漢字で「紅猿子」とあるように図鑑では赤い色はしているが、そうは見えなかった。図鑑によると冬羽は夏羽ほど赤みはないとのこと。薬樹園を過ぎたあたりでアトリが数羽見られた。慣れた人はすぐに発見出来るようですが、慣れない人は何度も説明を受けやっと木の枝に2羽のアトリの後ろ姿を発見。スズメの様な色で動きがないと枯れ枝・葉と区別がつけにくい。</p> <p>メタセコイアについて植物園の展示館で詳しく説明されている。日本(関西)で化石が発見され、発見者(大阪市立大学三木博士)がセコイアに「後の、変化した」という意味の接頭語である「メタ」を付けて1941年にメタセコイアという名で論文発表。1946年に中国四川省でこのメタセコイアの現存が判明。アメリカ人が本国に持ち帰り、育苗。1950年に日本がこれを譲り受け、公園・並木道・校庭などに植えた。本植物園にもそのときの3本が植えられている。至る所で目にするメタセコイアにもこのような歴史があるとは面白い。</p> <p style="color: red;">【観察できた鳥】アトリ、キセキレイ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ベニマシコ、メジロ、ヤマガラ</p> <p style="color: red;">【声を聞けた鳥】カワヒラ、ジョウビダキ</p>			
<b>感 想</b>	<p>ここ数日の暖かさは終わり、寒い1日でした。鳥の確認も難しく、修行不足(?)を痛感。昨年はあじさい坂のもみじの紅葉がきれいだったと記憶していますが、今回は葉が落ちてその面影はありませんでした。いろいろな植物の冬の姿を多く目にしましたが、春や夏はどうなっているのだろうとの興味も湧かせてくれます。来年は何回か訪れ季節の変化を味わいたいと思いました。</p>			
<b>次回予定</b>	<p>次回例会は12月5日(土) 布引～ハーブ園です。 詳細は後日連絡いたします。</p>			



沢山の実をつけたヒイラギ。とげのある葉とない葉が混在。とげのない葉に実がついていた。



木瓜(ボケ)の花  
彩の乏しいこの季節に真っ赤な花は貴重です。



メタセコイア並木